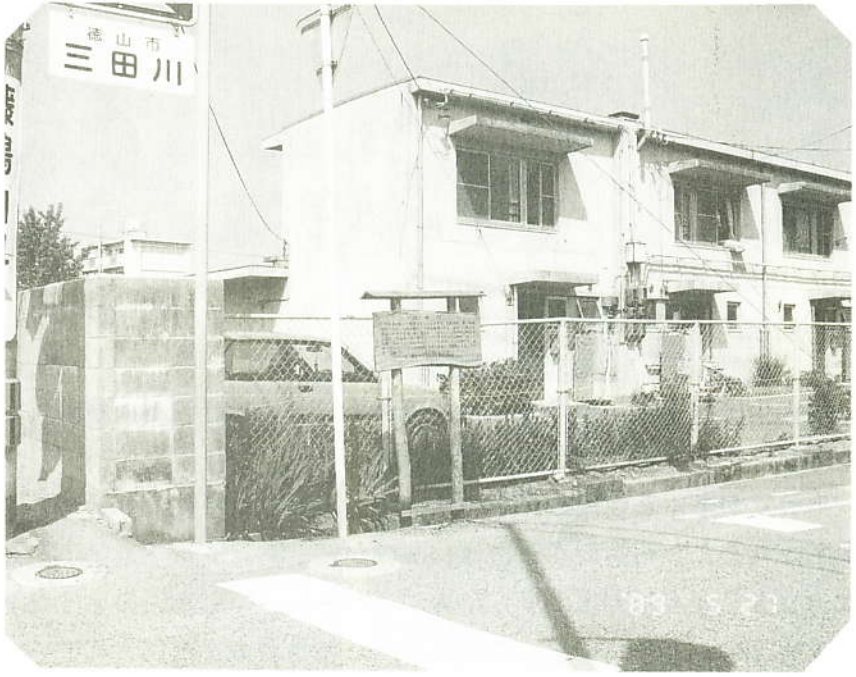
三田川

杉氏時代、東川の水を引き入れ、一部は堀に、一部は水田の用水とし、海に流されていた。（桜川ともいわれていた）

また、金剛山より流れ今宿辺りの水田を潤し徳山湾に注ぐ川があったが、この一帯の地主が山田氏であったため、山田川といっていた。山田川の用水不足を補うため、東川より引き入れた水を山田川に合流されたので、山田川の上流となり山田川と間違いを起こすようになった。

そこで川の名前を三田川としたといい、三田川が地名になった。

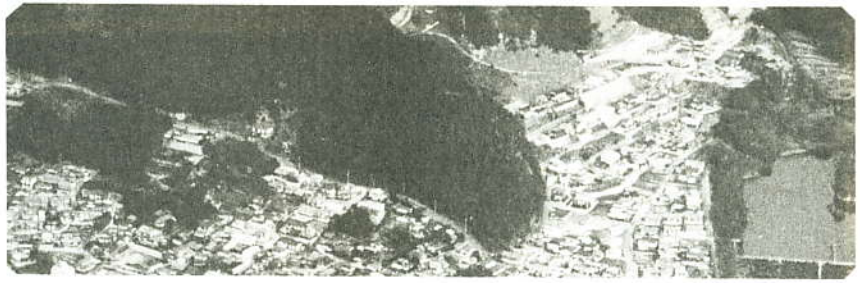


新堀（江戸町）

藩政時代は江戸在勤者が、徳山在勤になってきたとき、家中（武家屋敷）に空き家がないときは、現在の新堀に屋敷をもらって住んだので江戸町と言っていた。

明治になって廃藩となったが、毛利氏の所有地であったので、米作させるため開作して新たに田にしたので、新堀田と言われるようになり、新堀が地名になった。

金剛山



金剛山

徳山藩創設と共に、遠石十二坊の一つ常灯坊を館の裏山のふもとに移し、真言宗常祷院として毛利家の祈祷所とされた。そのため真言宗本山高野山金剛峯寺の金剛をとって、山名にしたと思われる。

勢屯

昔は「せいだむろ・せいだもり」などと言っていた。勢屯とは、戦いに出る時、勢をそろえるという意味で、いざという時に人馬を集め、兵糧武器をそろえた所であって、これが地名となった。